

# SQL Server 2022

## 【エディション】

2025/5/30

製品名	サポート可能な CPU (コア)の最大数	サポート可能な RAM の最大容量	データベースの最大容量
SQL Server 2022 Standard 日本語版 (※1)	4基(24コア)	128GB	制限なし
SQL Server 2022 Express(無償)	1基(4コア)	1GB	10GB

EXPRESSは使用メモリが最大1GBなのでデータまたはクライアント数が増えると「スピード」が遅くなる弱点があります。

## 【価格】

製品名	ライセンス区分	参考価格(税込)
UL1300-557 SQL Server 2022 Standard 日本語版 コア(4コア用) (CAL無制限) (※)		1,950,850円
UL1300-547 SQL Server 2022 Standard 日本語版 サーバ (CAL無) (※)		289,520円
UL1300-503 SQL Server 2022 クライアント アクセス ライセンス (1 CAL) (※)		54,450円
UL1300-523 SQL Server 2022 Standard 日本語版 (10CAL付) (※)		541,640円

### ◇ライセンス区分(コア・ライセンスとサーバー/CALライセンス)

#### (1)コア・ライセンスで購入…従来のプロセッサライセンスに相当

SQL Server が動作するハードウェア上の物理プロセッサの合計コア数でコア・ライセンスを購入します。たとえば、2CPU搭載で1CPUあたり8コアの場合には計16コア分のコア・ライセンスを購入せねばなりません。(上記参考価格で約800万円)コア・ライセンスを購入した SQL Server には、無制限のユーザーまたはデバイスを接続することができます。面倒な手続き(CALライセンスの購入)が不要というメリットはありますが、かなり高額になります。一般には接続台数(Webシステムを含む)が30台を超える大規模構成で導入されます。

#### (2)サーバー/CAL で購入…(推奨)

SQL Server が動作するサーバー数分(1ハードウェア毎)のサーバー ライセンスを購入します。また、SQL Server にアクセス(Webシステムを含む)するユーザーまたはデバイスの数だけのCAL も併せて購入します。CAL を購入したユーザーまたはデバイスは、社内にある複数の SQL Server にアクセスすることができます。一般には接続台数(Webシステムを含む)が30台未満の小規模構成で導入されます。

### 〔購入例1〕

受注出荷サーバx1、クライアント10台(受注出荷+進捗)のパソコンで利用する場合。

#### (ケース1)…サーバ/CALライセンス購入

- ・SQL Server 2022 Standard 日本語版 サーバ ライセンス x 1
- ・SQL Server 2022 Standard クライアント アクセス ライセンス x 10

#### (ケース2)…パッケージ購入

- ・SQL Server 2022 Standard 日本語版 (10CAL付) x 1

### 〔購入例2〕

受注出荷サーバx1、クライアント10台(受注出荷+進捗)、IP進捗30台(iPad等)で利用する場合。

#### (ケース3)…コアライセンス購入

- ・SQL Server 2022 Standard 日本語版 コア(4コア用) (CAL無制限) \*搭載CPU合計コア数分

### 〔購入先〕

- ・ライセンス購入の場合…富士通、NEC、キャノン、リコー、NTTデータ等マイクロソフト・パートナー企業
- ・パッケージ購入の場合…アマゾン等ネットショップ(ヤマダ電機など量販店等では販売されていない)

(※)価格は「OCNオンラインショップ」で2025/5/30に調査。